



冬は電気ストーブ火災に注意🔥

給油の必要もなく手軽に部屋をあたためられる電気ストーブは、皆さんもよく使われているのではないかと思います。石油ストーブと違い、直接火を使わないので安心だと思われがちですが、意外にも使い方を誤り**火災**となるケースが多いのです。

🔥実際に起きた事故の事例



事例①：就寝中に寝具より出火、住宅を全焼して**1人が死亡**した。

原因：電気ストーブを寝具の近くで使用したまま就寝したため、寝具が電気ストーブに接触し出火したものの。

※NITE（独立行政法人製品技術基盤機構）による実験写真



接触から約10分後（発煙開始）



接触から約30分後（発火）



「発火」とは？

ものに火がつくためには、直接火をつける「**着火**」と、外部からの加熱などにより温度が上昇することでそれ自体が燃え出す「**発火**」の2種類があります。したがって今回の場合は、電気ストーブからの加熱によって**布団自体から発火した**ということになります。

事例②：電気ストーブの上に干していた洗濯物が落下し、焼損する火災が発生した。

原因：冬に早く洗濯物を乾かすため、干していた洗濯物が電気ストーブ上に落下、そのまま発火し火災に至ったもの。

※NITE（独立行政法人製品技術基盤機構）による実験写真



※寝具やタオル等によく使用される綿の発火温度は約260℃といわれています。



事故防止のために！！

- ① 布団や衣類などの可燃物の近くに電気ストーブを置かない。
- ② **スプレー缶**や**ガスボンベ**を近くに置かない。
➡ 高温となると容器が爆発する危険性があります！！
- ③ 就寝中は使用しない。

※衣類・布団は燃え広がらなくても、くすぶって就寝中に**一酸化炭素中毒**となり死亡するケースもあります。

手軽で便利な電気ストーブですが、紹介したように、使い方には注意が必要です。皆さんも正しい取扱いをして、この寒い季節を快適に過ごしていきましょう。